

## 探究する心を育むⅠ ～ものとの関わりを手がかりにして～

○佐藤寛子 宮里暁美 石川綾子 伊集院理子 上坂元絵里 川辺尚子 高橋陽子 灰谷知子 渡辺満美 (お茶の水女子大学附属幼稚園)

本園では、「探究力・活用力が発揮される生活」というテーマで研究をすすめている。「探究する子どもたちの姿」を実践記録や写真記録、ビデオ記録に残し、それらをもとに話し合いを重ねる中で、「透明な素材」と関わる子どもたちの姿が浮かび上がってきた。そこで、「透明」の特徴に着目しながら、「探究への道筋」「探究する心」について省察していく。

＜探究って何？どんなイメージ？＞  
～日々の保育に照らし、「探究」からイメージできることを出し合う～

- 夢中になっている姿。
- 集中しているイメージ。
- なぜ？から始まる。
- 楽しくないと探究できない。好きじゃないとできない
- うまくいかないことでわかっていく。
- ちょうどよいという感覚やずっきりした感覚ともつながる？

A児の握っていたビニール袋。透明だからこそ、中を見通すことが出来、いろいろな角度から観察することが出来る。

「探究」を意識においたことから話題になった事例



### 3歳児(5月)のビデオ記録から

A児は、透明ビニール袋にまだ桜のまだ新しい黄緑色の実を入れると、中に水を注いだ。「きれいになあれ、きれいになっちゃえ」と言いながらさらに実を足していく。そして、ビニール袋の口をしっかり握って、すくっと立ち上がり、その場でぐるっと一回りした。その後、ビニール袋を目の前にかざし、中の実の動きをじっと見た。ゆっくり回ったり、勢いをつけて回ったり、ビニール袋を揺らしたりして、繰り返し実の様子を見ていた。

## 「透明」って面白い！ 幼稚園の暮らしの中に存在している「透明」なものいろいろ



透明ボード



セロテープ



氷

### 「透明」の魅力

- ◆ 美しさを際立たせる
- ◆ 不思議さへと誘う
- ◆ 視界に広がりを持たせたり、焦点化したりする

探究する心  
が動く！

### 「探究」の道筋

- 「美しさ」や「不思議さ」を感じる
- 自ら身体を動かし関わる
- 「もの」との距離を縮める
- 新たに発見し考える

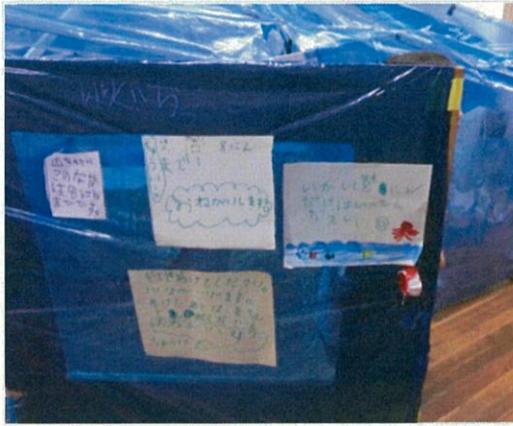
## 事例「今はこっちに水を入れたってことだね」(5歳児 10月)を考察する



### 「ほんものみたいな水族館をつくりたい！」

「水族館をつくりたい！」という子どもたちの思いを受け、教師は、より水族館らしい空間作りを意図して、部屋の中央にテント枠を置き、大きな透明青色ビニールシートをかぶせた。子どもたちは中に入ると周りを見渡し、上を見上げ、歓声をあげた。魚のお面をかぶり、テントの中で泳ぎ始めるB児に対して、「ここ(テントの中)はお客さんが見るところだよ」とC児は困惑気味に伝える。ここで、テントの中を水槽に見立て遊び始めたB児と、テントの外を水槽だと捉えたC児との間に、イメージの食い違いが生じた。

子どもたちは、透明ビニールシートを通して見た光や、場の美しさに引き込まれ、活動によりのめり込んでいった。そのことで、一人ひとりのイメージに食い違いもおこり、戸惑う様子も見られた。



### 「水はどっちに流れるのか？」

泳ぎ続けるB児の姿を見て、C児は少し考えた後、ドアを作り始めた。そして、「あけたらすぐに閉めて下さい」という断り書きを張り付けた。

その後、「水族館だからショーをしよう！」というアイデアが出た。テントの中にいた魚たちは、広い場所を求めて、テントの外に出てショーを開催。それに対し、今度はB児が戸惑った。「水は外側にはないはずでしょ！」

その様子を見ていたC児は、「じゃあ、今はこっち(テントの外)に水を入れたってことだね」と言って、テントのドアを開け、水を掻き出すようなしぐさをした。魚になった

一人ひとりの子どもが、自分のイメージを実現したいと懸命に考え、迷いや疑問を友達に伝える。対話を通して、子どもたちの活動への取り組みが深まり、イメージの共有がもたらされていった。

### 子どもたちの「探究する心」を育むために大切にしたいこと

- ☆ 美しいものを美しいと感じたり、不思議さにドキドキしたりする感性
- ☆ 身体を動かし、葛藤を味わいながら感覚を研ぎ澄ませる体験の積み重ね
- ☆ 「ひと」や「もの」との対話的關係